

# 事務事業事後評価シート[平成27年度事業]

## 1. 基本情報

■事業の担当課	博物館	■担当係	博物館
■評価事業名称	教育普及事業		
■事業開始年度			
■評価事業コード	402200 - 012	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり	
	■基本施策	02 社会教育の充実	
	■施策	03 社会教育機能の充実	
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの		
■法令等の名称			
■関連計画の名称			
■事業の目的と概要	収蔵資料や臨時に収集した資料による企画展示及び自然・歴史・民俗等の分野別にテーマを選定した学習会等を行い、資料や郷土に関する知識の啓発と学習機会の提供を図る。		

## 2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成27年度事業計画	平成27年度事業量実績
01	企画展示等事業	市民	年間1回開催。	年間2回開催。延べ来館者数6,007人。
02	教室学習会開催事業	市民	自然探索会3回、歴史探訪会1回、民俗探訪会1回、工作教室2回	自然探索会3回(86人)、歴史探訪会1回(27人)、工作教室2回(26人)、年中行事再現6回(65人)

## 3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	備考
直接事業費	1,284	1,998	1,274	616	
人件費	14,563	14,148	9,188	8,787	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	15,847	16,146	10,462	9,403	

## 4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	24年度	25年度	26年度	27年度	指標の説明
01	総合博物館にふさわしい人文分野、自然分野両面からの事業開催	20回	25回	24回	14回	企画展、教室学習会等(年中行事含む)等の開催回数

# 事務事業事後評価シート[平成27年度事業]

03	企画展期間中の来場者数と学習会等の参加者数	11,732人	11,788人	18,546人	6,211人	企画展期間中の来場者数と学習会等の参加者数
04	企画展1回当りコスト	373千円				
05	図録1回当りコスト					

## 5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

### ■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

### 達成状況の分析

みちのく民俗村の移管、改修工事による年度後半期の閉館などにより、来場者数が減少しているが、その割には一定の入場者数が確保された。学習会等の参加者の感想も好評で、知識の啓発、学習の場の提供ができています。

### 問題点・課題等

みちのく民俗村の移管にかわる新たな学習提供の場を検討する必要がある。改修完成後の教育普及活動の方法を再検討する。

### 1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

### 2. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

### 3. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

### 4. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

### 5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

### 6. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

### 7. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

### 8. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

### 9. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

### ■事業の見直し方策

改修された展示施設の活用

### ■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了